

## 正剛会第 99 回国際親善全国空手道選手権大会競技・審判規定細則

競技は、公益財団法人全日本空手道連盟空手競技規定により行うが、本大会申し合わせ事項は、正剛会技術委員会・審判部会による競技規定に基づいて実施する。

・形競技 トーナメント方式とする。

※審判員は中立公正を期するため、選手が同じ団体の場合は、試合に入らない。

(1)個人戦・団体戦共に競技種目別・要項に定められた「**競技指定形**」を演武する（団体形は、別に指定する）。

1・2 回戦は、同じ形を使用してよいが、**3 回戦で形を変えなければならない**。以後は、1 回戦で演武した形も含め同じ形でもよい。但し、白黄帯は全競技、1 回戦～決勝まで 1 つの形を演武してもよい（高校・大学・一般・壮年も含む）。

(2)幼年の部は、予選～決勝戦まで基本型での演武とする。

小学・中学の全種目、1・2 回戦は基本型、撃砕第 1、撃砕第 2 の中から演武する。小学（有段）・中学（有段）・高校・大学・一般・壮年の部は、「**決勝戦のみ**」スーパーリンペイを使用してもよい。

(3)個人戦全種目・2 名同時に演武を行い、決勝戦のみ 1 名での演武とする。

演武開始について、小学生は「形名」発声後、主審の短笛の合図で演武を開始する。中学生以上は「形名」発声後、各々のタイミングで演武を開始する。（主審の短笛なし）  
判定の際は、主審の「判定」の発声後、長めのホイッスルで判定の準備をさせ、続く短めのホイッスルで審判員全員が同時に旗をあげる。主審は一定の間（競技役員が判定を確認できる間）を置いた後、再度短めのホイッスルで審判員の旗を降ろさせる。その後、競技役員（補助員）が、赤・青の勝敗の判定及び勝者の宣告を行う。

(4)片方の選手が「棄権」の場合は、主審が棄権者側に旗を指し、勝利者の宣告（旗表示）を行う。「違反」があった場合は、必要に応じて主審が副審を集合させ、手短に協議のうえ、判定を行う。主審は違反があった選手側に旗を交差させ、勝利者の宣告（旗表示）を行う。

(※違反に関して、①演武の前後の礼をしなかった場合 ②帯がマットに落ちた場合 ③明らかに形が中断した場合 ④呼称した形名と違う形演武を行った場合)

(副審は、主審が違反に気付かなかった場合は、旗を小さく振って知らせる。)

(5)団体戦は、3 人制（男女の混成チーム可）にて、競技指定形より選び、**1 回戦～決勝まで 1 チームでの演武とする**。1～2 回戦の形と**3 回戦では異なる形を演武**しなければならない。以後は、1～2 回戦で演武した形も含め、同じ形でもよい。

小学団体は、小学 3 年生以上でのチーム編成を厳守すること。

団体戦において、形演武開始の礼及び終了の礼を 1 人でもしなかった場合は、「違反」となる。

・組手競技 トーナメント方式で行い、3位決定戦は行わない。

- (1) 審判員は中立公正を期するため、**選手が同じ団体の場合は、試合に入らない。**

(監査は可)

「**競技途中や勝敗宣告後に発覚した場合、次の試合前であれば、再試合を行う**」

※コート主任、及び副コート主任は公正な配置を行う。

- (2) 小学・中学の部は、6ポイント先取り・競技時間は60秒フルタイム。  
高校・大学・一般・壮年の部は、8ポイント先取り・競技時間は90秒フルタイム。

- (3) 勝敗は、小学・中学の部6ポイント先取り、高校・大学・一般・壮年の部8ポイント先取り、或いは「反則・棄権・失格」または、競技終了時に得点の多い選手を勝ちとする。競技時間終了時に同点で先取が無い場合、「1本の数」→「技ありの数」の優先順位で勝敗を決定し、いずれも同数の場合は、個人戦は「判定」により勝敗を決定する。

- (4) 団体戦（3人制）における欠員の場合は先詰めとし、予め提出されたメンバー表通りとする。（補欠選手の途中交代は、メンバー表提出の際に行うこと）  
全試合、勝敗が決しても大将戦まで実施する。

- (5) 「**分かれて・続けて**」の共通認識

両手での掴み・プッシング・掴んで2回以上の攻撃等があった場合は、ウォーニングまたはペナルティであり、「分かれて・続けて」ではない。残り15秒未満での運用は3～4秒かかるため、負けている選手の挽回する時間を奪うことになる。また、勝っている選手へのアドバンテージにもなるため、運用は慎重に行うこと。

- (6) 安全具

組手競技全種目に、全空連検定品である拳サポーター（赤・青、小学生はリバーシブル・可）、メンホー（マウスシールド装着は任意）、ファールカップ（小学3年生以上は必ず）、ボディープロテクター（道着内に着用、大学・一般・壮年の部は任意とする。）、インステップガード及びシンガードは任意とする。

※安全具装着のない選手は出場できないので、充分注意すること。

- (7) 10カウントルール

本大会では、10カウントルールを採用する。選手が倒れすぐに立ち上がれない場合、主審はドクターを呼びカウントをコールする。10カウント成立後、副審を招集し「反則・棄権・失格」のいずれかの判定を協議してコールを行う。

・異議申し立て

公式プロテスト（競技規定組手競技第13条並びに形競技第7条）について、本大会では以下の通り申し合わせる。

- ① 判定について審判団に異議申し立てすることはできない。